

芭蕉が歩いた道

高山森々として一鳥声きかず 木の下闇茂りあひて、夜行くがごとし…
「おくのほそ道」より

山刀伐峠

※芭蕉と曾良は、元禄二年（一六八九）五月十七日（陽暦七月三日）の午前、この峠を越えて尾花沢に向かいました。

山刀伐峠は、当時、「おくのほそ道」の本文からもうかがうことができるように、ブナ林の中の細く曲がりくねった道でしたが、今は新道ができたことよって、一瞬のうちに通り過ぎてしまいます。

土地の若者の案内で芭蕉主従が苦勞して越えた山刀伐峠（旧道）は、昭和六〇年の秋に「歴史の道」として整備され、散策が容易にできるようになりました。

コースは、かなり傾斜のきつい所もありますが、履物はスニーカーでも十分です。山頂付近には駐車場、トイレが整備され、また、頂上近くの子宝地藏尊、子持ち杉、山刀伐峠顕彰碑付近には簡単な休憩所もあり、ゆっくりとした時間を過ごすことができます。



「おくのほそ道」尾花沢

— 芭蕉と曾良を “さまざまにもてなしはべる” —

元禄2年 (1689年)

5月17日 (陽暦7月3日)

松尾芭蕉と河合曾良は「おくのほそ道」の旅で、山刀伐峠を越え、屋過ぎ旧知の鈴木清風宅に着き、この日は清風宅に泊まった。

5月18日 (陽暦7月4日)

昼、養泉寺で風呂に入り、この日から養泉寺に延べ7泊した。

5月19日 (陽暦7月5日)

村川素英が養泉寺で奈良茶をご馳走した。

5月20日 (陽暦7月6日)

小雨 記事なし

5月21日 (陽暦7月7日)

朝は鈴木小三郎 (東水) 宅、晩は沼沢所左衛門 (遊川) 宅に招待され、この夜は清風宅に泊まった。

5月22日 (陽暦7月8日)

晩は、村川素英に招待された。

5月23日 (陽暦7月9日)

夜は、沼沢仁左衛門 (秋調) に招待された。この夜は、日待 (ひまち) の行事があり、その夜は清風宅に泊まった。

5月24日 (陽暦7月10日)

晩は、田中藤十郎 (一橋) が養泉寺でもてなした。

5月25日 (陽暦7月11日)

夜、沼沢仁左衛門 (秋調) が庚申待 (こうしんまち) に招待した。

5月26日 (陽暦7月12日)

昼より沼沢所左衛門 (遊川) 宅において歌川平蔵 (東陽) がもてなした。

5月27日 (陽暦7月13日)

晴れ、午前6時30分ごろ尾花沢から山寺立石寺へ向かった。鈴木清風が楯岡まで馬を用意してくれた。

このように、松尾芭蕉と河合曾良は、5月17日 (陽暦7月3日) の昼から、5月27日 (陽暦7月13日) の朝まで連日、鈴木清風を取り巻く尾花沢の俳人たちの歓待 (奈良茶飯など) を受け、日待 (ひまち) ・庚申待 (こうしんまち) の行事を体験しました。

そうして、歌仙「すずしさを」と「おきふしの」の二巻を巻いています。



芭蕉・清風歴史資料館
TEL(0237)22-0104
尾花沢市商工観光課
TEL(0237)22-1111(代) FAX(0237)22-3222